

令和6（2024）年度 家庭教育オピニオンリーダー研修④ 実施報告

実施日：令和6（2024）年9月11日（水）

家庭教育支援の活動に携わると、子育ての悩みについて相談を受けるなど、保護者と接する機会が増えます。今回の研修ではそんな場面を想定し、講話と演習をとおして、カウンセリングマインドを生かした相談の在り方や、カウンセリングの基礎について学びました。

○ 講話「カウンセリングマインドと相互理解について」

総合教育センター教育相談部 副主幹 岩崎 実香

講話では、始めに子どもの発達段階に関する説明がありました。乳児期から青年期の各発達段階の特徴と、各年代において獲得したり、乗り越えたりしていく必要のある発達課題について確認しました。

続いて、『カウンセリングマインド』や、それを生かした話のきき方について詳しい説明がありました。ここではまず、『きき手と話し手の間に温かい信頼に満ちた人間関係をつくらうとする姿勢・態度・心構え』をカウンセリングマインドと呼ぶことが示されました。また具体的な要素として、相手を受け入れていること、理解しようとしていること、誠実さをもって聞こうとしていること、の3つが示されました。その後、「思い込み」や「臆測」、「アドバイス」といったものは、相手の話をきく時に邪魔になることや、カウンセリングの目的は、話し手自身が解決策を導き出せるように促すことであるとの説明もあり、受講者は自身の経験を振り返りながら学びを深めました。



○ 演習「カウンセリングマインドと相互理解について」

総合教育センター教育相談部 指導主事 澁谷 景子

演習は、講話で示された「話をきくときに必要な態度」の実践を目的として、受講者同士がペアを組んで、大きく3つの演習が行われました。これを通して、「きき手も話し手も、自分の関心・視点で話したりきいたりしていること」、「相手をわかろうとする姿勢の大切さ」、「話の内容とは別に、きき手と話し手の関係の中で起こる感情があること」を、きき手と話し手の両方の立場で体験しました。



受講者は3つのセッションを意欲的に体験した後、気付いたことや感じたことを共有し、講師の行う解説とまとめによって話をきくポイントを整理しました。そして、実際に保護者から相談を受けたときの具体的な対応について、確認しました。



★受講者の声（アンケートから）

- ・きき手の基本的な態度は、例えを交えて話してくれたので、とても分りやすかったです。午後の演習では、大変貴重な体験ができました。相手に寄り添うという言葉の意味をストンと落とし込むことができました。
- ・傾聴の大切さに改めて気付くことができました。子育てに悩みや不安を持つ方や、その他の方にも話をきく機会があれば、話をきく3つの基本的な態度を忘れず対応したいです。
- ・話し手側は、きき手の表情やしぐさ等によって安心感を得られ、話す気持ちに影響していることを実際に体験して感じる事ができました。話をきくことの難しさも感じました。
- ・「受容」と「許容」は違うということ、相手をありのまま受け止めることが大切だと知りました。ワークをしたことで、実際に役立つ体験ができました。
- ・相手を思いやる気持ち、きく姿勢がとても大切だということに気付かされました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp